

---

## 参 考 資 料

---

### (1) 受賞者について

- 1 氏 名 ハルオ・シラネ (Haruo Shirane)
- 2 生 年 1951年
- 3 現 職 アメリカ合衆国 コロンビア大学 東アジア言語・文化学部 教授 (日本文学・日本文化)、学部長
- 4 略 歴
- |           |  |
|-----------|--|
| 1974年     | コロンビア大学 学士号取得 (英文学・東洋学)                |
| 1977年     | ミシガン大学 修士号取得 (日本文学)                    |
| 1983年     | コロンビア大学 博士号取得 (日本文学)                   |
| 1982年-87年 | 南カリフォルニア大学 東アジア言語・文化学部 助教授 (日本文学・日本文化) |
| 1987年-89年 | コロンビア大学 東アジア言語・文化学部 助教授 (日本文学・日本文化)    |
| 1989年-93年 | コロンビア大学 東アジア言語・文化学部 准教授 (日本文学・日本文化)    |
| 1993年-現在  | コロンビア大学 東アジア言語・文化学部 教授 (日本文学・日本文化)     |
| 2013年-現在  | コロンビア大学 東アジア言語・文化学部学部長                 |

### (受賞歴)

- 1987年 Choice Outstanding Academic Title of the Year: *The Bridge of Dreams: A Poetics of The Tale of Genji*
- 1993年 (第15回) 角川源義賞 『夢の浮橋「源氏物語」の詩学』
- 1998年 Haiku Society of America Book Award, for *Traces of Dreams: Landscape, Cultural Memory, and the Poetry of Basho*
- 2001年 石田波郷賞 (21世紀えひめ俳句賞) : 『芭蕉の風景 文化の記憶』
- 2004年 Choice Outstanding Academic Title of the Year: *Early Modern Japanese Literature, An Anthology*
- 2010年 公益信託上野五月記念日本文化研究奨励基金研究奨励賞 (日本文学・歴史・美術を対象として、それぞれのジャンルの基盤を支える研究に与えられる賞)
- 2012年 Choice Outstanding Academic Titles of the Year: *Japan and the Culture of the Four Seasons*
- 2017年 R. R. Hawkins Prose Award, Honorable Mention for outstanding single volume reference in Humanities and Social Sciences: *Cambridge History of Japanese Literature*

### (主要著作等)

#### 著書

- *The Bridge of Dreams: A Poetics of The Tale of Genji*. Stanford University Press, 1987
- 『夢の浮橋：源氏物語の詩学』 中央公論社 1992 (上記日本語版)
- *Traces of Dreams: Landscape, Cultural Memory, and the Poetry of Basho*. Stanford University Press, 1997
- 『芭蕉の風景 文化の記憶』 角川書店 2001 (上記日本語版)
- *Japan and the Culture of the Four Seasons: Nature, Literature, and the Arts*. Columbia University Press, 2012 (Paperback, 2013)
- 『四季の創造 日本文化と自然観の系譜 (仮)』 角川選書として、KADOKAWAより2019年刊行予定 (上記日本語版)

#### 編書

- *Early Modern Japanese Literature: An Anthology*. Editor and author. (近世日本文学選集) Columbia University Press, 2002 (Abridged edition 2008)
- *The Longman Anthology of World Literature, The Seventeenth and Eighteenth Centuries*. Co-editor. Pearson Longman, 2004
- *Classical Japanese, A Grammar*. Columbia University Press, 2005

- *Classical Japanese Reader and Essential Dictionary*. Columbia University Press, 2007
- *Traditional Japanese Literature, Beginnings to 1600, An Anthology*.
- 『講座源氏物語研究：海外における源氏研究』おうふう 2008
- *Envisioning 'The Tale of Genji': Media, Gender, and Cultural Production*. Editor and author. Columbia University Press, 2008
- 『越境する日本文学研究』 編著 勉誠出版 2009. *New Horizons in Literary Studies: Canon Formation, Gender, and Media*. Editor and author. Benseisha, 2009. Bilingual Edition.

#### 共編著

- 『創造された古典：カノン形成、国民国家、日本文学』 ハルオ・シラネ／鈴木登美共編著 新曜社 1999
- *Inventing the Classics: Canon Formation, National Identity, and Japanese Literature*. Edited by Haruo Shirane and Tomi Suzuki. Stanford University Press, 2000. Korean edition translated by Sook Young Wang. Somyong Publishing Company, 2002
- *The Longman Anthology of World Literature, The Medieval Era*. Co-editor. Pearson Longman, 2004
- *The Tale of Heike*. Edited with introduction by Haruo Shirane. Translated by Burton Watson. Columbia University Press, 2006 (paperback, 2008)
- 『文学に描かれた日本の「食」のすがた 古代から江戸時代まで』 ハルオ・シラネ／小峯和明／渡辺憲司共編著 至文堂 2008 (「国文学解釈と鑑賞」別冊)
- 『日本文学からの批評理論—アンチエディプス・物語社会・ジャンル横断』 ハルオ・シラネ／松井健児／藤井貞和共編著 笠間書院 2009
- *The Demon at Agi Bridge and Other Japanese Tales*. Edited with introduction by Haruo Shirane. Translated by Burton Watson. Columbia University Press, 2010
- 『環境という視座 日本文学とエコクリティシズム』 ハルオ・シラネ／渡辺憲司／野田研一／小峯和明共編著 勉誠社 2011
- 『世界へひらく和歌：言語・共同体・ジェンダー』 ハルオ・シラネ／兼築信行／田淵句美子／陣野英則共編著 勉誠社 2012. *Waka Opening Up to the World Language, Community, and Gender*. Edited by Haruo Shirane, et.al., Benseisha, 2012. Bilingual Edition.
- *Record of Miraculous Events in Japan*. Translation by Burton Watson. Introduction by Haruo Shirane. Columbia University Press, 2013
- *Japanese Visual Culture: Performance, Media, and Text*. Edited by Haruo Shirane, Kobayashi Kenji, and Saitō Maori. Kokubungaku shiryōkan, 2013. English version of Kokubungaku shiryōkan ed., *Amerika ni watatta monogatari-e: emaki, byōbu, ehon* (Pelikansha, 2013)
- *The Cambridge History of Japanese Literature*. Edited by Haruo Shirane and Tomi Suzuki, with David Lurie. Cambridge University Press, 2016
- *Monsters, Animals, and Other Worlds: A Collection of Short Medieval Japanese Tales*. Edited by Keller Kimbrough and Haruo Shirane. Columbia University Press, 2018

※書名の日本語訳は受賞者によるもの

## (2) 贈呈理由

本賞は贈呈の対象に5つの条件を設けており、その一つに「著作の刊行の時期は、直近の数年間のもの」とある。

本年度もそれを踏まえて選考され、*Japan and the Culture of the Four Seasons: Nature, Literature, and the Arts* (2012) Columbia University Press が、贈呈対象と決定された。なお、シラネ氏には本年度に先立つ *The Bridge of Dreams: A Poetics of The Tale of Genji* (1987、日本語版：『夢の浮橋—源氏物語の詩学』1992)、*Traces of Dreams: Landscape, Cultural Memory, and the Poetry of Bashō* (1997、日本語版：『芭蕉の風景 文化の記憶』2001) の二著があり、それぞれが94年と07年に本賞の候補としてノミネートされた。

すなわち氏は話題作を世に問いつづけてきたのであり、その第3作目がみごとに受賞作に選ばれたのであった。

さて受賞作は四季を切り口とするものながら、書名に日本と文化を大胆に並列させるように、日本論であり文化論であることに、大きな特色をもつ。

日本は日本で独自の国家歴史や構造をもち、一方、それを因としながらも別個の文化があるという、強固な視座の主張があるらしい。

たとえば里山 (farm village) という空間を鋭く考察の対象としたり、しばしば歴史を経由した二次自然 (secondary nature) が登場するところにも、国家と自然および文化の関係への独特で深い考察が見られる。

すでに文明化され、その後廃墟となった自然に対して、その自然を本来の自然と違うと見なして「第二の自然」とよんだのは、遠く堀辰雄の『信濃路・大和路』だったと思うが、シラネ氏もまた、それを鋭く見つめる論者である。

また氏が文化とよぶものも、通り一遍のものではない。詩歌、これこそ氏の上記三著をつなぐものだが、のみならず氏は、活花、茶道そして祭り、お守りまでも文化の視野の中に入れて考察する。読者は試みに本著の目次をご覧になるとよい。それに羅列される単語の華やかさが、書物の内容の多彩さを証明してくれるだろう。

この点が従来の優れた二著をさえ大きく引き離して、より幅広で豊饒な文化論に仕立てられた本著の特色である。

大きく著述を拡大し充実させつづけるシラネ氏には、さらに大きな成果が期待できる。最良の受賞作を得た喜びは、大きい。

### (3) 受賞者メッセージ

アメリカ合衆国  
コロンビア大学 東アジア言語・文化学部 教授 (日本文学・日本文化)、学部長  
ハルオ・シラネ

山片蟠桃賞については昔から知っていましたが、まさか私が受賞することになるとは思いもしませんでした。歴代の受賞者は錚々たる方々ばかりで、大変光栄に感じています。日本文化研究のグローバル化が、現在、極めて重要であり、今回の受賞はとりわけ嬉しく思っています。

山片蟠桃は「神仏化物もなし世の中に奇妙ふしぎのことは猶なし」という辞世の和歌を残しています。この歌からわかるように、彼は現実主義者で科学的思考の持ち主でした。しかし、「神仏化物もなし」という頗る近代的な考え方を詠んだこの歌は逆に、当時、いかに多くの人々が異界の存在を信じていたかを示しています。それは大阪を象徴する四天王寺と住吉大社が広く人々の信仰を集めていたことにも明らかです。説経節の『山椒大夫』や『しんとく丸』の主人公である厨子王としんとく丸も四天王寺で救いを得ます。

異界の存在など「目では見えないものを表現する」側面が伝統芸能にはありますが、大阪では四天王寺の聖霊会舞楽大法要など現在でも多くの伝統芸能や伝統行事が催されています。また、大阪は長い芸能の伝統と都市の貨幣経済が交差する地として、浄瑠璃や歌舞伎といった近世の演劇、近松門左衛門の作品などの宝庫でもあり、日本の物語や芸能と異界の研究を行っている私にとって、大阪はたいへん重要な存在であり続けてきました。

これまで私は、日本文学や日本文化の奥深さや多様性を英語圏の読者に伝えるよう努めるとともに、日本文学を「世界文学」としてグローバルな文脈の中に位置づけるべく努力してきました。また、コロンビア大学で将来の日本文学研究者を育てることに力を入れてきました。私は日本文化研究の鍵は、日本の研究者と海外の研究者との連携にあると強く信じています。この点で私は長年にわたり多くの日本の優れた研究者と仕事をする機会に恵まれ、とても幸運であったと思っています。

最後に個人的なことですが、私は日本で生まれたものの、一歳の時に渡米し、アメリカ人として育ちました。そのため、日本語や日本文化を殆ど知りませんでした。幸い、大学進学後、日本文化に関心を抱くようになり、その結果、日本へ戻って、親戚に会うことができました (父は阪神間の出身で、近年亡くなった親しい伯母は大阪に住んでいました)。それが今に続く刺激的な長い旅の始まりで、ようやく故郷へ戻ってきた、という感じがしています。

※日本語訳は受賞者によるもの

### (4) 過去の受賞作、受賞者

(年齢・職名・国名は受賞当時)

回・年度	著作	著者	国名
第1回 (昭和57年度)	“World Within Walls”をはじめとする著作 (日本文学史の研究)	ドナルド・キーン(60) (コロンビア大学教授)	アメリカ合衆国
第2回 (昭和58年度)	“Lessons from History”をはじめとする著作 (新井白石の翻訳)	ジョイス・アクロイド(65) (クイーンズランド大学教授)	オーストラリア 連邦
第3回 (昭和59年度)	『日本語の中のオランダ語』をはじめとする著作 (日蘭交流史の研究)	フリッツ・フォス(67) (国立ライデン大学名誉教授)	オランダ王国

第4回 (昭和60年度)	『日本の万葉集』をはじめとする著作	金 思燁(73) (東国大学校教授兼同大学校付設日本学研究所長)	大韓民国
第5回 (昭和61年度)	『10-13世紀日本文学における日記と随筆』をはじめとする著作	ヴラジスラフ・ゴレグリヤード(54) (リ連・科学アカデミー東洋学研究所にシ ンケラト'支部極東部長兼シンケラト'大 学日本語科主任教授)	ソビエト社会主 義共和国連邦
第6回 (昭和62年度)	『日本古典文学事典』をはじめとする著作 (古典文学の研究)	アール・マイナー(60) (プリンストン大学教授)	アメリカ合衆国
第7回 (昭和63年度)	『道行文』をはじめとする著作	ジャクリーヌ・ビジョー(49) (パリ第7大学教授)	フランス共和国
第8回 (平成元年度)	『18世紀日本の『徳』の諸相—大坂商人の学問所・懐徳堂』をはじめとする著作(近世思想の研究)	テツオ・ナジタ(53) (シカゴ大学教授)	アメリカ合衆国
第9回 (平成2年度)	歴史的日本に対する文明論的あるいは学問的考察に基づく一連の著作	サー・ヒュー・コータツツイ(66) (元駐日英国大使)	英国
第10回 (平成3年度)	“The Tale of Genji”(『源氏物語』全訳)の翻訳をはじめとする一連の著作	エドワード・サイデンスティッカー (70) (コロンビア大学名誉教授)	アメリカ合衆国
第11回 (平成4年度)	『坂本龍馬と明治維新』をはじめとする一連の著作 (日本近世、近代史の研究)	マリウス・ジャンセン(70) (プリンストン大学名誉教授)	アメリカ合衆国
第12回 (平成5年度)	『御堂関白記』をはじめとする著作 (御堂関白記の翻訳と詳細な注釈)	フランシーヌ・エライユ(64) (国立高等研究院教授)	フランス共和国
第13回 (平成6年度)	『大英図書館蔵日本古版本目録』をはじめとする著作 (大英図書館蔵の日本古版本の書誌研究)	ケネス・ガードナー(70) (元大英図書館東洋コレクション副 主席)	英国
第14回 (平成7年度)	奄美・沖縄を中心とする調査と研究をはじめ、民族的考察に基づく日本研究の一連の著作 (奄美・沖縄を中心とする民族学研究)	ヨーゼフ・クライナー(55) (ボン大学教授、ドイツ-日本研究所 所長)	ドイツ連邦共和 国
第15回 (平成8年度)	『中日文化関係史論』をはじめ、日本の歴史と文化の研究に基づく一連の著作 (歴史・文化の考察及び日中文化関係史の研究)	周 一良(83) (北京大学教授)	中華人民共和国
第16回 (平成9年度)	『地球と存在の哲学環境倫理を越えて』にいたる一連の著作(風土論を通じた日本文化研究)	オギュスタン・ベルク(55) (国立社会科学高等研究院教授・現代 日本研究所長)	フランス共和国
第17回 (平成10年度)	日本研究推進への多年の貢献と、『古事記』の言語学的考察による一連の著作	ヴィエスワフ・コタンスキ(83) (ワルシャワ大学名誉教授)	ポーランド共和 国
第18回 (平成11年度)	多年にわたる日本文学・日本文化史研究の功績と『もう一つの中世像』を中心とする一連の著作 (物語絵本や尼僧(門跡尼寺)の研究)	バーバラ・ルーシュ(67) (コロンビア大学日本文学・文化名誉教 授、中世日本研究所所長)	アメリカ合衆国
第19回 (平成12年度)	『近世崎人の芸術』と、日本美術研究に関する一連の著作(日本の仏教美術史・近世絵画の研究)	ジョン・ローゼンフィールド(76) (ハーバード大学東洋美術史名誉教 授)	アメリカ合衆国
第20回 (平成13年度)	“Embracing Defeat”(邦訳『敗北を抱きしめて』)をはじめとする一連の著作(日本の戦後史の研究)	ジョン・ダワー(63) (マサチューセッツ工科大学教授)	アメリカ合衆国
第21回 (平成16年度)	『余暇を通じてみた日本文化』『拳の文化史』をはじめとする余暇社会学、娯楽史的分野に関する一連の著作(日本の戦後史の研究)	セップ・リンハルト(60) (ウィーン大学日本学科教授)	オーストリア共 和国
第22回 (平成19年度)	“A Waka Anthology, Volume One”をはじめとする一連の著作	エドウィンA.クラムストン(75) (ハーバード大学日本文学教授)	アメリカ合衆国
第23回 (平成22年度)	『日蔵漢籍善本書録』をはじめとする一連の著作	嚴 紹璽(70) (北京大学教授)	中華人民共和国
第24回 (平成25年度)	『日本の書籍—始発より19世紀にいたる文化史』及び江戸時代の書籍文化に関する一連の著作、また欧州所在の日本古典籍の書誌調査に基づくデータベースの整備	ピーター・コーニツキー(62) (ケンブリッジ大学教授)	英国
第25回 (平成28年度)	『日本史—侍からソフト・パワーへ』をはじめとする一連の著作	ウィリー・F・ヴァンドウワラ (66) (ルーヴァン大学名誉教授兼特任教 授)	ベルギー王国

## (5) 山片蟠桃について

山片蟠桃(やまがたばんとう、1748~1821)

大坂の豪商升屋の大番頭として活躍するとともに、『夢ノ代』を著して、封建制下に驚くべき合理主義を展開した、江戸時代後期の町人学者。本名は長谷川有躬、のち山片芳秀と改めた。通称は升屋小右衛門、蟠桃はその号である。

播磨国印南郡神爪村(現、兵庫県高砂市)に生まれ、大坂に出て升屋の別家を継いだ。本家升屋の苦境に際して敏腕をふるい、仙台藩にかかわりつつ、仙台藩および升屋の財政再建に成功した。しかも升屋を、全国数十藩を相手とする大名貸に成長させた。これにより、1805年(文化2年)升屋の親類並み(親類次席)にあげられ、公儀から徳行を賞されてもいる。

学問は、懐徳堂で中井竹山・履軒に儒学を学び、さらに麻田剛立に新しい天文学を学んで、蘭学にも深い関心を持つに至った。生涯を通じての学問上の成果は、大著『夢ノ代』12巻に集大成されている。卓抜な経済論をとらえ、一切の神秘主義を否定して無神論を主張するだけでなく、地動説を確認したうえで、宇宙には私たちの太陽系と同じものが無数に存在するという、大胆な大宇宙論さえ展開した。この創意と創見とに満ちた現実的・合理的思想は、近代的世界観成立史上、とりわけ光彩をはなつものである。